

令和４年度 第２回丸亀市産業振興推進会議 全体会議 (会議録)	
日 時	令和４年８月８日（月）午後２時～午後４時
場 所	丸亀市生涯学習センター４階 講座室１
出席者	(丸亀市産業振興推進会議 会長) 小山会長（京都橘大学経済学部 准教授）
	(丸亀市産業振興推進会議 委員) 21名中、13名出席 杉尾委員、筒井委員、土井委員、西川 平二委員、馬場委員、濱中委員、東原委員、藤井委員、松岡委員、松下委員、真鍋 有紀子委員、眞鍋 宣訓委員、矢野委員（五十音順）
	(丸亀市産業文化部) 林部長 (丸亀市産業文化部 産業観光課) 志村副課長、逢坂担当長、村山担当長、横井主任、吉田副主任 (丸亀市産業文化部 農林水産課) 川池副課長 (丸亀市産業文化部 文化課) 石川副課長 (丸亀市 農業委員会) 大西次長
	(株式会社地域計画建築研究所) 高野氏、山部氏、山口氏
欠席者	内海委員、奥田委員、梶谷委員、桑田委員、菅沼委員、柴田委員、西川 正則委員、松原委員（五十音順）
傍聴者	なし
議 題	1. 挨拶（小山会長） 2. 本日の会議進行について 3. 議事 【全体会】 (1) 事業者アンケート調査案について 【専門部会】 (1) 第二次丸亀市産業振興計画の進捗状況について (2) ワークショップ ①「次期産業振興計画で取り組むべき施策について」 ②「次期計画の基本理念について」 ワークショップ結果の共有・講評 (3) その他 4. 閉会

会 議 の 概 要

1. 挨拶

京都橘大学 小山会長より挨拶

2. 本日の会議進行について

事務局より会議進行に関する説明を実施。

3. 議事

【全体会】

(1) 事業者アンケート調査案について

事務局より資料1に関する説明を実施。

(小山会長)

- ・何か意見などはあるか。

(真鍋有紀子委員)

- ・アンケートの「地域」という言葉は、丸亀市内を指しているのか、それとも漠然と香川県を指しているのか。

(事務局)

- ・「丸亀市内」を想定している。「地域内」を「丸亀市内」と書き換えさせていただく。

【専門部会】

(1) 第二次丸亀市産業振興計画の進捗状況について

資料2により専門部会ごとに第二次丸亀市産業振興計画の進捗状況の説明を実施。

(2) ワークショップ

株式会社地域計画建築研究所より資料3によりワークショップの進め方の説明を実施。

※株式会社地域計画建築研究所は以下、通称であるアルパックで統一する

下記①、②について、専門部会ごとにワークショップを実施。

- ①「次期産業振興計画で取り組むべき施策について」
- ②「次期計画の基本理念について」

ワークショップ結果の共有・講評

(西川委員)【商工業・新産業部会】

- ・大手企業も中小零細企業も共に頑張っていかなければならない。
- ・丸亀市外から来た企業が、地元企業と連携できれば良いが、現状はそうっていない
- ・地元で学んだ学生が地元企業を知らないために丸亀市外へ出て行ってしまう。総じて

地元企業のアピール力が弱い。

- ・商業は観光との連携も大事になってくる。
- ・「未来の100年企業」をもう少し具体的にできるキーワードはないのか。具体的なキーワードが入っていくことで、より引き締まった計画になるだろう。

(松岡委員)【農業・水産業部会】

- ・農業も含め一次産業は国民を養っていく一番大切な産業だ。それを農業者だけではなく、国民全体が意識・共有するべきだ。地域の農業・農村をいかに維持していくかを基本理念に取り入れるべきだ。
- ・世界的に食料危機の問題がある。やはり食料自給率の向上が求められている。外国の安いものを買うのではなく、「地産地消」ということで、一般消費者、企業に関わらず、多少値段が高くてでも地元の物を買ってもらい、選んでもらうことが重要だ。
- ・農業を活性化するためには、担い手と農地の確保が欠かせない。ただ現実問題として、新規就農を促すことは難しい。なので、持続的に農業ができるように現在の農家を支援していかなければならない。また、次世代の継承ということで、地元でサラリーマンをしている農家の息子を「兼業農家」として促していくことも重要だ。
- ・農業は食料生産だけではなく、国土の保全、田んぼがダムの役割をして災害を防ぐ等の多面的役割がある。農業が発展するために、ぜひ市にはPR活動を頑張ってもらいたい。
- ・子どもの時から農業体験学習が必要ではないか。
- ・丸亀市では住宅団地が多く開発され、農地がどんどん無くなっている状況がある。一方では空き家もあるので、その対策も必要だ。

(矢野委員)【観光・地場産業部会】

- ・丸亀市内で閉じるのではなく、インバウンド等も見据えて、広域的に観光政策はやっていくべきだ。
- ・観光産業、伝統産業は実際に体験して初めてその価値を感じることができる。両産業とも、これまで長らく続いてきた取組みを見直して新たな産業政策を生み出していくことが必要だ。
- ・観光人材の育成、商店街の振興等、様々な話題が出てきたが、全体としては、理念と産業政策が混ざり合いながら議論ができ、非常に有益な時間を過ごすことができた。

(小山会長)

- ・コロナによって、以前からあった問題がより浮き彫りになった。この問題点を新たな産業政策で解決していく視点が重要だ。
- ・世界との距離感を日本は全く議論してこなかった。自分たち（丸亀市）の産業がどう世界と繋がり展開できるか、そういった「グローバル」な視点が出てきたことは非常

に嬉しい。

- ・素晴らしい地域の企業や観光資源を PR できていないのが現状だ。人をどう丸亀市に呼び込むのかということを中心として、産業政策を刷新していかなければならない。
- ・DX のように、これまであった何かにプラスαする形で、「新結合（イノベーション）」を促さなければならない。まずは成功体験を一つ作ることが重要だ。

(3) その他

事務局より、第三回丸亀市産業推進会議の日程や内容等を案内。

午後 4 時 0 0 分閉会

(以上)